

「癌」食べて治せ NO.7

ニンニクが、肝臓に好作用

高田信康

大阪市立大第2外科講師

「癌」の予防は、第一に食生活、次いで「丹羽SOD様食品」

酸素は、私たちに必要不可欠なものです。しかし、酸素から過剰な活性酸素ができると、その酸化作用で細胞の膜や核を傷つけます。その結果、動脈硬化や糖尿病、癌など老年病を引き起こします。

癌を引き起こす主因といわれる活性酸素への対策は、先ず日常の食生活に注意することが先決です。本シリーズでは、食生活から見た「癌予防」のポイントについて掲載します。しかし、食事だけでは、癌を予防できないことも事実です。そこで、増加する活性酸素対策（癌予防対策）に、「丹羽SOD様食品」を摂取するのも一方策です。

これをヒントに、高田講師らは、ニンニクの癌予防効果を研究してきました。これまでの研究では、イオウ化合物の中でも油に溶ける脂溶性物質に、大腸癌や胃癌を抑制する効果があると報告されています。

Q：昔からニンニクは体によい、と言われていますが、これまでの研究成果は？

A：アメリカでは、数年前から国立癌研究所を中心に、癌予防食品の研究が進められている。中でも、特に重視されているのがニンニクである。ニンニク独特の臭みは、イオウを含む化合物によるもの。このイオウ化合物が、癌予防に効果があるといわれている。

Q：癌の発生過程とニンニクがその発生過程を阻止するメカニズムについては？

A：私たちは、ニンニクに含まれるイオウ化合物を脂溶性のものと水溶性のものに分けて、それぞれラットの肝臓癌の前癌状態を抑えるかどうかを実験したのです。

目次

- ① ニンニク研究の成果は？
- ② 癌の発生を阻止する機序
- ③ 脂肪摂取過多による問題
脂溶性成分が癌化を促進
水溶性成分が癌化を抑制

SOD製剤による臨床報告
余命数カ月の肺癌が回復

日本SOD研究会がおとどけする
健康増進と病気の
老化予防のQ&A

No. 19



このQ&Aは、病気の90%に関するといわれる活性酸素、活性酸素を除去する丹羽SOD様食品など、さまざまな症状や疾患について、最新の情報を掲載しています。定期的に発行されますので、毎号お集めになりますと、健康管理ノートができます。このQ&Aは、最寄りの丹羽SOD様食品取扱店でお求めになれます。

癌の発生・成長には、

①イニシエーション過程：細胞の遺伝子が傷ついて、癌の芽ができる。

②プロモーション過程：さらに、癌の芽の増殖が促進されるといふ二つの過程を経て、一人前に育っていく。そこで、この二つの過程で、脂溶性と水溶性のイオウ化合物が、前癌病変を抑えるかどうかを実験した。

簡単にいうと、実験の内容は次の通りです。

①イニシエーション過程の実験：発癌剤を与える前にイオウ化合物をラットに与えておくと、前癌病変が抑えられるか否か。

②プロモーション過程の実験：発癌剤を与えて、さらに肝臓の細胞の増殖を促す。これにイオウ化合物を与え続けることで、前癌病変の広がりが抑えられるか否か。

脂溶性成分が癌化を促進

結果は予想外だった。これまで、発癌を抑えるといわれてきた脂溶性イオウ化合物の多くが、癌のプロモーション過程を促進していたのである。

「脂溶性イオウ化合物は、13種ぐらい実験したのですが、確かにイニシエーション過程では、癌を抑制していませんでした。」

しかし、プロモーション過程の実験では、数でも面積でも脂溶性イオウ化合物が、癌化を促進するという結果が出たのです。

最近、大阪市立大では、複数の臓器で癌の発生をみる動物実験を行っているが、それでもニンニクの脂溶性イオウ化合物はプロモーション過程を促進するという結果が出ているそうだ。

水溶性成分は癌化を抑制

しかし、悪い結果ばかりではなかった。同じ実験を、水溶性のイオウ化合物で行うと、プロモーション過程でもイニシエーション過程でも、細胞の癌化が抑えられたのである。「水溶性イオウ化合物の多くには、においが無い」というから、これは従来いわれていた、においの成分とは別物のようだ。

物のようだ。

この水溶性イオウ化合物に、肝臓癌の前癌病変を抑える作用が見つかったのである。

※肝臓癌の前癌病変：前癌病変は、細胞の変化したシコリ：肝臓癌の前癌病変は、正確には、肝臓にできる小さなシコリのことをいう。これは発癌性物質によって細胞が変異し、異常な細胞に変わるために起こる。

大腸のポリープと同じで、人間の腸の場合、1cm以下だと悪性のものは少ないが、それ以上になると、癌化するものが多くなると考えられる。



Q：ニンニク中の水溶性成分が癌の抑制に有効なことは分かりましたが、その水溶性成分が、どのような機序で作用するのでしょうか？

A：高田講師たちは、ニンニクに含まれる水溶性のイオウ化合物に肝臓の前癌病変を抑える効果があることを実験で見つけ出した。

実験したニンニクの水溶性イオウ化合物は、S・メチルシステインなど5種類。その中には、ラットの肝臓にできる前癌病変を半分以下に抑えたものもあったという。水溶性のイオウ化合物は、どのように癌の発生を抑えるのだろうか。

S・メチルシステインの作用①

高田講師の研究によると、S・メチルシステインなどをラットに投与すると、細胞の増殖に働く酵素（ODCやSATなど肝臓の細胞から分泌される酵素）が減少していた。

癌は、細胞が狂ってメチャクチャに増殖していく病気だ。この増殖に関連する酵素の分泌を抑えることが、発癌の抑制にも関係しているのかもしれない。

S・メチルシステインの作用②

また、癌は複数の癌遺伝子が次々に変化して起こることが分かっている。高田講師が、このうちの一つの



癌遺伝子を調べたところ、その発現（癌遺伝子として活動すること）が遅れることが分かった。

ニンニクの水溶性イオウ化合物が、癌遺伝子の目覚めを遅らせる可能性も出てきたのである。S・メチルシステインは、ニンニクのほか、タマネギやニラ、長ネギなどのネギ類はもちろん、キャベツやアブラナ科の植物、インゲン豆など多くの植物に含まれている。

ただし、実験で使ったS・メチルシステインは、ニンニクに換算すると、ニンニクの力ケラを一日に数十個食べると計算になるそうだ。

Q：ニンニクの癌抑制効果を検討する上で、今後の課題は？

A：
課題①食品かそれとも抽出物か

「食品で、癌を予防する場合、食品そのものを食べるのか、有効成分を抽出して取るのか、という問題が出てきます。ニンニクの場合、食べて癌を抑制するかどうかは、まだ不明。鮮度の問題もあり、調理で成分がどう変化するかも分かりません。とすると、有効成分を抽出して取った方がいいのではないか」と高田講師は考えている。

課題②人の肝臓にも有効か否か

また、今回の実験は、動物で実験的に前癌病変を抑制することが分かっただけで、それが人間の肝臓癌にも当てはまるかどうかは分からない。人間の場合、肝臓癌は、C型肝炎ウイルスの感染や飲酒、さらにそれに付随して起こる肝硬変に合併して起こるケースが大半だ。そこで、今後は、自然に肝硬変になるラットやC型肝炎ウイルスなどを使って、より人間に近い状態での研究が必要である。

一口メモ

①有効成分はアリシンやアリキシン

これまでの研究では、においの成分で強い抗菌力を持つアリシンが癌を防ぐといわれている。

動物実験では、揮発性のイオウ化合物が、皮膚癌、大腸癌、肝臓癌、肺癌などを抑制すると報告されている。また、最近、外的なストレスにさらされたときに作られるアリキシンという物質に、癌抑制作用があることが発見された。

※本文は、「癌」食べて治せ（日刊スポーツ・No.19）から、抜粋・引用しました。

バックナンバーについて
日本SOD研究会では、これまでに発行した「Q&A」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。
ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会までご連絡ください。



**命と健康のために
SODロイヤル**

SODロイヤル（丹羽SOD様食品）は、丹羽博士が長年をかけて開発した、天然の植物・種子を素材にした天然製剤で、副作用などの心配は皆無の健康食品です。

国際製法特許取得

SOD製剤による臨床報告

本症例はすべて、丹羽博士が院長を務める土佐清水病院での、末期癌を含めた重症の癌患者の症例です。博士が長年かけて研究開発した**天然SOD製剤BG104**および**天然低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)**を治療の主体とした症例を掲載しています。

小誌の掲載内容は、丹羽博士の著書「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」から、抜粋・引用しました。治療の詳細を知りたい方は同書を参考にしてください。

余命数カ月の肺癌が一年で回復

Y・K 23歳

女性 甲状腺癌

甲状腺癌手術後、肺に転移

【現症ならびに来院時所見】

一三歳春頃より甲状腺異常あり。以後手術を三回受け、一五歳の時には、既に甲状腺癌の診断がつき、肺転移が認められていたという。

来院時、息切れ、呼吸困難著明。チアノーゼも見られ、写真21(省略)のように両肺野とも約五分の四に肺癌の瀰漫性(びまんせい)の濃い陰影が見られた。右頸部のリンパ節腫脹も著明で、呼吸困難のため気管支切開も行い、人工のパイプ(気管カニューレ)も喉頭に装着されていた。BG1

04と低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)を所定の量(省略)内服させ、本人のQOLを考え、入院治療は行わず、外来治療で経過を観察した。

【臨床経過】

患者はほとんど毎月来院し、検査を行い、胸部レントゲン写真も撮影したが、上昇していたマーカーSLXやCEAも固定し、一年後には若干減少し、二年後の平成七年五月の胸部レントゲン写真でも、写真22(省略)に見られるように二年前の来院時の胸部レントゲンとほぼ変化なく、乳部リンパ節腫脹もほぼ消失し、呼吸困難、チアノーゼ、息切れも安静時には消失し、労作時に若干息切れが見られる程度となった。

現在残業、夜勤などは行っていないが、事務職に勤務し、通常の日常生活を行っている。

【考察と結論】

二年前の来院時には、頸部リンパ節腫脹、呼吸困難、チアノーゼも見られ、胸部レントゲン写真でも、全肺野の大部分の正常な呼吸面積が失われており、医学常識では余命数カ月と判断された。BG104を内服した結果、息切れ、チアノーゼ、呼吸困難、リンパ節腫脹は軽減し、胸部レントゲンでも悪化が見られず、社会生活を続けられているという事は、BG104が著効していると考えられる。

丹羽博士が長年をかけて研究・開発し、多くの学会や研究機関で臨床成績が確認されているSODロイヤル(丹羽SOD様食品)を始めとする、活性酸素を除去するルイボスTX、スーパールイボスティ、SODクリームなどは、下記の取扱店でお求めになれます。



[当商品には合成着色料・合成保存料は使用していません]

お問い合わせ先

製造・発売元
株式会社**フジ流通システム**
埼玉県富士見市鶴馬3489-1